

京林大だより

No.69



絵：卒業生 熊走君

オープンキャンパスを開催

京都府立林業大学校では「オープンキャンパス2023」を7月29日（土）に開催し、京林大の魅力をPRしました。

《プログラム》

- ・教育方針やカリキュラム、進路等の説明
- ・チェーンソーを用いた丸太切りの実演（1年生）
- ・高性能林業機械操作の実演（2年生）
- ・高性能林業機械・ハーベスタシミュレーターの操作体験（学生による指導）
- ・先生や在学生による個別相談

高校生や大学生、社会人、その付き添いの方など、京都府内だけでなく、遠方からも多数参加していただきました。

大変、暑い日でしたが、皆さん熱心に見学されました。個別相談では、授業に関することや京丹波町での暮らしなど多くの質問や相談がありました。

今後も林大のPRを続けていきます。



高性能林業機械操作体験
（2年生による指導）



チェーンソーの実演
（1年生）



シミュレーターの操作体験
（1年生による指導）

令和6年度入学試験は以下の日程で実施します。〔募集人員20名、修業年限2年〕

詳細は本校ホームページをご覧ください。

皆様の受験をお待ちしています。



<https://www.pref.kyoto.jp/kyorindai/jukentop.html>

選抜方法	出願期間	実施日
推薦	令和5年10月11日(水)～10月25日(水)	令和5年11月8日(水)
一般(第1回)	令和5年11月1日(水)～11月15日(水)	令和5年11月29日(水)
一般(第2回)	令和5年11月15日(水)～11月29日(水)	令和5年12月13日(水)

京丹波町立和知中学校との連携

中学生の研究（探究活動「和知ゼミ」）をお手伝いしました。

8月7日（月）和知中学校研究チームの生徒4名が京林大を訪ねてくれました。

林業の担い手不足と森林の活動、ツキノワグマの生息と森林（落葉広葉樹）の保全、緑の募金の3つのテーマについて事前に勉強し、そこで生まれた疑問点に答えました。

まず、柴田校長より各テーマの現状を説明し、質問に回答しました。森林をめぐる問題は〇か×か？など明確な答えは少なく、人の生活・産業と自然を観察しながら少しでも〇に近い答えを探すことばかりです。そこで実際に山を巡って一緒に考えることにしました。峠の上から山を眺め、どこに何の木が生えているのかを知って、答えは一つではないことをわかってくれたようです。



【山の説明に聞き入る和知中の皆さん】

今月の授業参観

『刈払い作業実習』

今年も1年生が草刈りの技術を習得するため、延べ4日間、刈払い作業実習を行いました。実習場所は、わち山野草の森、府民の森ひよし、地域の公民館周辺でした。最初、うまくできなかった学生も、日に日に技術が向上し、最後には適切で効率的な作業ができるようになりました。

刈払い機を使った作業は、危険を伴う作業ですので、京林大では実習前に危険予知ミーティングで作業行動目標を全員大きな声で発した後、作業を始めます。4日間とも安全に作業を終えることが出来ました。



【ミーティング】



【作業に励む学生】



校長室より

「わちふるさと祭り2023」で丸太切り体験を実施！

校長 柴田 繁

新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、初めての夏休みとなり、各地で花火大会や納涼祭等が開催され、今年の夏は、久しぶりに賑わいをみせました。

このような中、和知地域の夏の一大イベントとして地域の方々に親しまれてきた「わちふるさと祭り」が4年ぶりに開催され、林業大学校も京丹波森林組合と合同でブースを出展させていただきました。

今回も4年前と同様に丸太切り体験を実施し、約300gに切った丸太の見本を参考に、参加者の皆さんに300gになるよう切ってもらい、見事、ピッタリ(±10g)に切れた方には、森林組合から提供された木製時計や木製椅子をプレゼントしました。

当日は、30名の方に参加いただき、丸太切り体験を通して木に触れていただき、森林を守り



【丸太伐り体験コーナーの様子】

育てていくためには、間伐等の手入を行うとともに、伐採された木材の利用を進めていくことが必要であることを参加者の皆様にお伝えしました。参加された方には、京都の木で制作した木製ストラップをプレゼントしました。

林業大学校も、京丹波（和知）地域の一員として、これからも地域の活性化と森林・林業の振興のために頑張っていきますので、引き続きよろしくをお願いします。